

外山啓介 ベートーヴェン Meets

外山啓介ピアノ・リサイタル

「月光」

「ワルトシュタイン」

「悲愴」

「熱情」

2011

7/27 (水)

PM 6:45 開演

愛知県芸術劇場
コンサートホール

全席指定 ¥3,800 学生 ¥1,500 (税込)

主催：中京テレビ放送

© Yuji Hori

お問合せ
お申込み

中京テレビ事業 ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月～金 AM9:30～PM5:30/土・日・祝日休業)

インターネットからでもお申込み頂けます。 <http://cte.jp>

チケット販売所

チケットぴあ (Pコード 131-774) 0570-02-9999
愛知芸術文化センタープレイガイド 052-972-0430
ローソンチケット (Lコード 48905) 0570-084-004

栄プレチケ92 052-953-0777
中日サービスセンター(中日ビル1F) 052-263-7282
イープラス eplus.jp

セブンイレブン店頭

他

学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様をお願い致します。

●曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

●未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

外山啓介インタビュー

Keisuke Toyama, Piano

若手No.1ピアニストとの呼び声も高い外山啓介。'07年のCDデビュー以来、毎年各地で精力的に演奏会をおこなってきた。キャリア5年目を迎えた今年、全国ツアーのテーマに選んだのは、ベートーヴェン。「月光」「悲愴」「熱情」に「ワルトシュタイン」を加えたベートーヴェンの「4大ソナタ」に挑戦する。今回は、ベートーヴェンにまつわる自身のエピソードを披露。また、クラシック・ビギナーにも最適で、往年のファンも大喜びの4大ソナタ・プログラムを紐解いてもらった。

©YujiHori



ドイツ留学で身に付けたこと

—7月からスタートする全国リサイタルツアーのテーマは、ベートーヴェン。しかも「月光」「悲愴」「熱情」「ワルトシュタイン」という4大ソナタに挑戦されます。この曲目を選ばれた経緯をお聞かせください。

ドイツに留学した経験があるので、いつかドイツの作曲家を取り上げたいと思っていました。また、今年でデビューして5年目なのですが、このくらいの時期に古典のソナタをツアーで取り上げられたらいいなと以前から思っていたのです。

—そのドイツ留学で得たものは？

一番よかったのは、季節感を肌で感じる事ができたことです。日本の四季は、変わり目が緩やかですよ。ドイツでは、すごくはっきり変わるんですよ。僕が住んでいたのは北ドイツのハノーファーですが、冬は朝の8時まで真っ暗で、夕方5時にはまた真っ暗になってしまいます。一日中曇っていて、一日一回は雨が降る。そんな毎日が続いて気分も塞いだりするんです。それが一転、春になるとときには、本当に2~3日でパッと季節が変わるんですよ。そのときのよろこびが、とても大きいんです。それは、向こうで生活しなかったら分からなかったことだと思います。だから、ベートーヴェンのソナタに「春」という作品がありますが、あれだけの季節の差があったからこそ、あの曲が出来たんだと肌と目で感じ取ることができて、楽曲の理解も深まったと思います。

ベートーヴェンの4大ソナタを紐解く

—ベートーヴェンの4大ソナタについて、皆さんに外山さんから説明してもらえますか？

まず「ワルトシュタイン」と「熱情」は、ベートーヴェン活動時でも中期に書かれたものです。彼自身、その頃は、いろいろな創作意欲に満ち溢れたときだったのではないのでしょうか。その原動力となったのが、フランスのエラールピアノを手に入れたことだと思うんです。そのピアノのおかげで、楽器の可能性や音域がぐっと広がったと言われています。それが曲の精度にも反映されていると思います。また、なによりも新しい楽器によって、音楽性が広がったことに対するよろこびが、曲にも満ち溢れているんですね。「ワルトシュタイン」には、それがとても明るく表れていて、「熱情」は正反対にちょっと苦惱的だと感じます。「熱情」では、同

じモチーフが繰り返し使われています。そして特徴的なのが、ヘ短調という調性。悩みや苦しみ、死を意識した調性だという説もあります。ヘ短調でソナタを書いて、あれだけ執拗に同じモチーフで曲を作ったということは、すごい試行錯誤とこだわりがあったんだろうと思います。「月光」というタイトルは、第1楽章のイメージからベートーヴェンではない人が名付けたようです。ただ僕は、嵐のような第3楽章も意外と「月光」という感じがしています。「悲愴」はベートーヴェン本人が名付けた数少ない例の内のひとつだということです。そんなエピソードも曲をより楽しんで聴いていただくためのエッセンスになると思います。

演奏家としての意気込み

—今回のリサイタル、ご自身はベートーヴェンをどう演奏で表現されますか？

ベートーヴェンの大きなソナタは、巨匠と呼ばれるようなピアニストはみんな録音しているはず。魅力はそれぞれ全く違うし、とても個性的です。じゃあ、僕はどういう風に表現したらいいんだろう？と考えたこともありました。でも、最近よく思うようになったのは、無理に自分らしさを出そうとするんじゃなくて、自分が楽曲に寄り添おうということ。だから今、自分は精一杯、楽曲に真正面から向き合っ、悩んだりしても、それとことん追究することが大切なんじゃないかと思っています。今回は、大きいソナタを4つも演目に並べたので、ちょっと大変かなと思うんですけど（笑）。僕にとっては新たな挑戦ですし、オール・ベートーヴェンというのも初めてなので、名古屋のお客さまにも、今までとは全く表情の異なる音を聴いていただけたら、と思っています。



Profile

とやま・けいすけ / 2004年、第73回日本音楽コンクール第1位。07年、CDデビュー。同時に全国で行ったデビューリサイタルは完売。新人としては異例のスケールでデビューした。その繊細で色彩豊かな独特の音色を持つ演奏は各方面から注目を浴びており、今後、最も活躍が期待される若手ピアニストである。

外山啓介オフィシャルサイト keisuke-toyama.com

最新アルバム 6/29 on sale 「外山啓介BEST」